

# リフレクション支援ツール「RePraCard」に搭載の 初年次ゼミ活動時におけるグループワークをサポートするための機能

## A Tool for Supporting Group Work in the First-Year Seminar

喜久川 功<sup>\*1</sup>, 安藤 博文<sup>\*2</sup>, 内田 智秀<sup>\*3</sup>  
Isao KIKUKAWA<sup>\*1</sup>, Hirofumi ANDO<sup>\*2</sup>, Tomohide UCHIDA<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup> 常葉大学

<sup>\*1</sup>Tokoha University

<sup>\*2</sup> 静岡大学

<sup>\*2</sup>Shizuoka University

<sup>\*3</sup> 名城大学

<sup>\*3</sup>Meijo University

Email: kikukawa@sz.tokoha-u.ac.jp

あらまし：近年、大学における初年次ゼミ等においては、スタディ・スキルやソーシャル・スキルに関する教育の実施が求められている。このような中、著者らは、リフレクション支援ツール「RePraCard」を開発し、さらには、本ツールを活用して、初年次ゼミ形式の授業において、スタディ・スキル等のトレーニングに関する教育実践を行ってきた。本稿では、「RePraCard」を活用した初年次ゼミ活動時におけるグループワークをサポートするために実装した「クラスルーム」機能について述べる。

キーワード：初年次ゼミ、リフレクション、グループワーク、学習活動支援ツール、クラスルーム機能

### 1. はじめに

近年、大学等では、「初年次ゼミ」として位置付けられる授業において、スタディ・スキル教育の実施が求められている。また、スタディ・スキルと合わせてソーシャル・スキルに関する内容も学習活動に含めることが有効とされている<sup>(1)</sup>。

このような中、著者らは、リフレクション支援ツール「RePraCard」の開発を行い、また、本ツールを活用して、筆頭著者が担当する初年次ゼミ形式の授業「人間力セミナー」において、スタディ・スキル等のトレーニングに関する教育実践を行ってきた<sup>(2)・(3)</sup>。具体的には、アンケート調査の設計と実施、調査結果（データ）の整理・分析、分析結果に基づいたレポートの作成、発表用資料の作成とプレゼンテーション、といった一連の取り組みを課題として学生に課し、さらには、学生が授業内・外で行った活動内容や、それに伴う気づきやふり返りの内容といったものを RePraCard に記録し、繰り返し参照することによって、授業内活動と授業外活動が密接に連動した学習活動となるよう、指導を行った。

本稿では、まず、2章において、RePraCard の基本機能であるリフレクション支援機能について概説する。本機能を用いることで、上述したような授業内・外の活動が密接に連動した学習活動となるように、学習者を導くことが可能になると考える。次に、3章で、RePraCard の拡張機能ともいえる「クラスルーム」機能について述べる。本機能は、スタディ・スキルと合わせてソーシャル・スキルに関する学習活動を進めていく際に行われる「クラス全員での活動」や「グループでの活動」をサポートするために設計され、搭載された。この二つの機能はシームレ

スな連携が可能となっているため、両機能を効果的に用いることで、スタディ・スキルやソーシャル・スキルに関する学習活動の展開・進行が、よりスムーズに実施できるようになると考える。

### 2. リフレクション支援機能

ここでは、「RePraCard」のリフレクション支援機能について、概説する。まず、学習者は、RePraCard 上で、自身が行った活動の内容や、気づきやふり返り等の内容を、【カード】として自由に登録・管理することが可能である（【カード】には、「コメント」の入力に加え、写真などの「ファイル」の添付も可能）。また、学習者は、各自の【学習テーマ】を設定・登録することが可能であり（授業者から課される場合もある）、【学習テーマ】ごとに【スケジュール】の設定も可能である。さらには、各【学習テーマ】ごとに、【学習の記録】が管理可能となっており、【学習の記録】には、自身が作成したファイル等を蓄積することが可能となっている。加えて、RePraCard では、【学習テーマ】ごとに【カード】を関連付けたり、関連付けを解除したりすることが可能となっていて、学習者は、【学習テーマ】ごとに【学習の記録】と【カード】の関係を適切に編集・更新する活動を継続して進めることによって、自身のふり返り活動をより深めていくことが可能となっている<sup>(3)</sup>。

### 3. 「クラスルーム」機能

この章では、実際の「RePraCard」の画面を用いながら、「クラスルーム」機能について概説する。

図 1 左は、学習者用 ID 側から見た「クラスルーム」機能のトップ画面である。

学習者用 ID では、図 1 の①から、「先生からのお知らせ」を確認することが可能となっている。なお、授業者用 ID では、クラスに登録されている学習者用 ID に対して、「お知らせ」を通知したり、「ファイル」を提供したりすることが可能となっている。授業者は、この機能を用いることで、グループワークの内容や、事前に行っておくべき活動といった、各種の指示を学習者に対して周知することが可能となっている。

図 1 の②からは、学習者自身が授業者に対して公開したデータの確認が可能となっている（ここに登録されたデータは、授業者と自分自身のみが閲覧可能）。なお、学習者は、授業者またはクラス全員に対し、【学習の記録】の中から開示したいデータを精選して「公開データ」とすることが可能であり（もちろん、非公開に戻すことも可能）、クラス全員に公開した場合は、図 1 の③から確認することが可能となっている（こちらに登録されたデータは、クラス全員が閲覧可能）。また、「公開データ」の閲覧時には、コメント機能が提供され、これを用いて、複数のユーザー間でコメントの交換も可能である。学習者は、グループワークの様々なタイミングにおいて、これらの機能を用い、作業の事前準備を進めたり、お互いのデータを共有したり、意見交換を行ったり、先生にアドバイスを求めたり、といったことが実行可能である。なお、これらの機能は、対面でグループワークを行うケースにも、オンラインでグループワークを行うケースにも利用可能であり、ケースに応じて柔軟に利用することが可能となっている。

また、図 1 の④には、グループとして公開したいデータを検討するための「グループ活動支援ツール」を設けた。なお、グループは、新規に作成すること以外にも、適宜、メンバーチェンジや再設定等も可

能となっている。

なお、これらの「クラスルーム」機能に加えて、「先生のお勧め」機能も搭載した。これにより、授業者は、「先生やクラスに公開されたデータ」の中からデータを精選し、クラス全員に対し、「お勧めデータ」として提供することが可能である。学習者は、先生から提供された「お勧めデータ」を参考に、自身の活動を進めることも可能である。

#### 4. おわりに

本稿では、リフレクション支援ツール「RePraCard」の「クラスルーム」機能について、報告を行った。現在、筆頭著者が担当する初年次ゼミ形式の授業「教養セミナー（前期）」と「人間力セミナー（後期）」において、RePraCard を活用した授業を進めているところである。今後、本実践を通して得られたデータの分析を踏まえ、本ツールの有効性の検証を試みていく。

#### 謝辞

本研究は、JSPS 科研費 16K00492 の助成を受けた。

#### 参考文献

- (1) 佐藤浩章 編：“大学教員のための授業方法とデザイン”，玉川大学出版部，東京（2010）
- (2) 喜久川功，北彩乃，北川興輔，杉浦寛：“授業内外連動型学習をアシストする LMS におけるリフレクション支援機能”，教育システム情報学会第 44 回全国大会講演論文集，pp. 223-224（2019）
- (3) 喜久川功，安藤博文，内田智秀：“リフレクション支援ツール「RePraCard」の提案”，日本教育工学会 2020 年春季全国大会（第 36 回大会）プログラム集，pp. 131-132（2020）

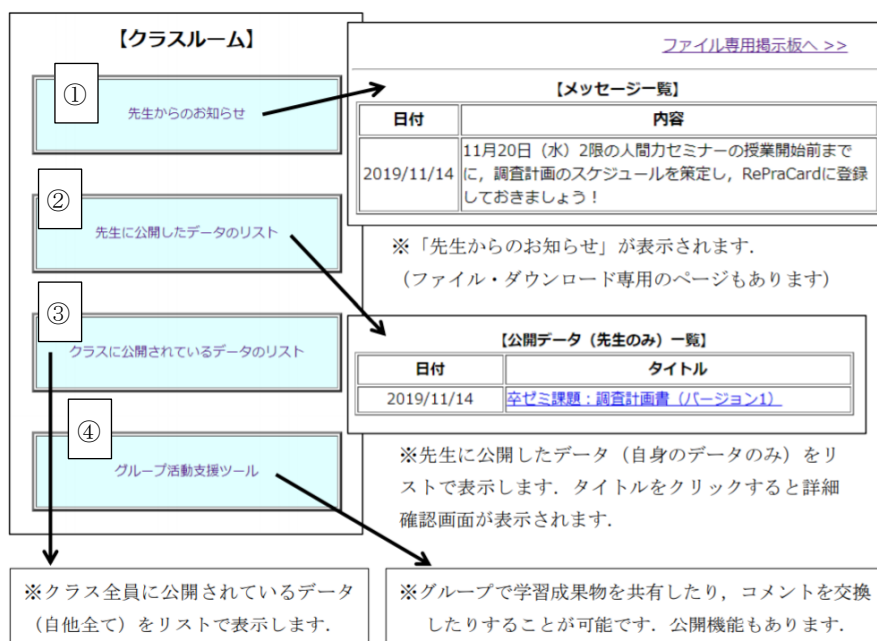


図 1 「クラスルーム」機能